

2013 年 12 月 2 日
環境社会配慮助言委員会委員長 村山 武彦
担当ワーキンググループ主査 鋤柄 直純

フィリピン国 洪水リスク管理事業（カガヤン・デ・オロ川）
（協力準備調査（有償））
ドラフトファイナルレポートに対する助言

助言案検討の経緯

ワーキンググループ会合

- ・日時：2013 年 11 月 22 日（金）14:03～17:13
- ・場所：JICA 本部（会議室：1 階 111 会議室）
- ・ワーキンググループ委員：石田委員、作本委員、清水谷委員、鋤柄委員、松下委員
- ・議題：フィリピン国洪水リスク管理事業（カガヤン・デ・オロ川）協力準備調査に係る
ドラフトファイナルレポートについての助言案作成
- ・配付資料：フィリピン国洪水リスク管理事業（カガヤン・デ・オロ川）協力準備調査（有償）
ドラフトファイナルレポート事前配布資料
- ・適用ガイドライン：国際協力機構環境社会配慮ガイドライン（2010 年 4 月）

全体会合（第 42 回委員会）

- ・日時：2013 年 12 月 2 日（月）14:30～18:38
- ・場所：JICA 本部（会議室：113 会議室）

上記の会合にて助言を確定した。

助言

全体事項・代替案の検討

1. 気候変動の影響により、洪水の頻度と強度が増すことが考えられるので、気候変動への具体的な適応策の検討及び対応をすること。
2. スコーピングで議論された 6 つの alternative components と、DFR で議論された alternatives との関係がわかるように説明を加えたうえで、alternative の設定、選択のプロセスについて適切な説明を報告書に記載すること。
3. マスタープランが目標としている 50 年確率規模に対し、本事業は 25 年確率規模の洪水対策事業であるので、非構造的な対策や手法も併せて提言すること。
4. 洪水対策の一環として非構造対策を具体的に提言するとともに、この分野における技術協力の重要性を報告書に記載すること。
5. 非構造物対策の実施にあたり構造物対策と連携が取れて効果のあがるモニタリングモニタリングの計画策定およびその実施を行うよう、DPWH に申し入れすること。
6. 本事業実施の効果を高めるために、またリスクアセスメントの観点から、別件で計画されている発電ダム建設における治水機能の付加について提言すること。
7. マスタープランで、洪水対策のために上流部における森林の回復が極めて重要であることを提言すること。

環境配慮

8. 動植物に関して、既存資料の活用とモニタリング調査等を通じた情報の追加を行い、必要に応じた緩和策への反映をDPWHに提言すること。
9. 既存資料を活用し、沿岸部にて天然の仔稚魚を採集し生計を立てている人々への影響評価を行うこと。
10. 魚類等がその生活史で利用する場所（例：生育場所、産卵場所、索餌場など）に河川の改変が与える影響について、可能な範囲でモニタリング計画に含めるよう DPWH に提言すること。

スコーピング・マトリックス

11. サンゴ群集への影響の有無、程度について、適切なモニタリングを実施するよう DPWH に提言すること。
12. 温暖化防止との関連で、重機等の車両から生じる CO₂ の削減に努めるよう DPWH に提言すること。

以上